

チュニジア:ユニークな銀行ローンの仕組みによって ルーフトップ太陽光の導入が進展¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

太陽光資源に恵まれているチュニジア²は 2009 年、「チュニジア太陽エネルギー計画」を立ち上げ、2020 年までに 540MW の太陽光発電と 250MW の太陽熱発電を導入する目標を設定した。この目標を達成するために、大型の太陽光・太陽熱プロジェクト³がいくつも検討されてきたが未だ実現していない。

このような状況下、導入規模は小さいものの、銀行から借りた PV 設置費用の返済を電力・ガス公社への電力料金の支払いを通して行うというユニークな銀行ローンの仕組みによって、近年、ルーフトップ PV の導入が着実に進展し始めている。

銀行ローンの仕組みは以下の通りである。銀行からのローンでルーフトップ PV を設置した住居の所有者は、ルーフトップ PV の発電量だけ電力・ガス公社への電力支払い料金が減るが、ローンの返済が終了するまでは減額分も含めた元のレベルの電力料金を電力・ガス公社へ支払い、減額分が電力・ガス公社を通して銀行へのローンの返済にあてられる。

ルーフトップ PV の設置者は設置費用を負担する必要がない。また、設置者はローンの支払いが終わればその後の電力料金は PV 発電量分だけ安くなる。銀行にとっては、電力・ガス公社が間に入る仕組みによって、ローンの返済が確実になる。また、銀行は貸し倒れのリスクが減るので、通常よりも低い利子で貸し付けることができ、ルーフトップ PV ローンの貸出先を増やすことができる。更に、銀行からの貸付金は、実際は PV の設置者ではなくルーフトップ PV 設置業者に渡されるように設定されており、設置業者の育成も図られる⁴。

このような銀行ローンの仕組みを取り入れたルーフトップ PV プログラム (Prosol Elect) は 2010 年に開始され、ルーフトップ PV 導入件数は 139 (2010 年) から 1,643 (2013 年) へ、導入量は 257KW (2010 年) から 3,994KW (2013 年) へと大きく増加し、累積導入

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業 (海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² チュニジアは北アフリカに位置し、リビアとアルジェリアに挟まれた小国である。太陽エネルギーポテンシャルは北部で 1,600-1,800kWh/m²/y、中部で 1,800-2,100 kWh/m²/y、南部で 2,100-2,400 kWh/m²/y。

³ TuNur に 2GW の CSP 発電所を建設し、発電された電力を海底ケーブルでイタリアへ輸出する計画など。

⁴ ルーフトップ PV の設置コストの 30% が国から補助されるが、この補助金も PV の設置者に対してではなく、設置業者へ支払われる。

量は 7,900KW に達している。また、132 社にも上る多くの PV 設置業者が育ち、また、PV モジュールの組み立て事業者（3 社）も生まれている。

この銀行ローンの仕組みによって今後もルーフトップ PV の設置が増加すると見込まれている。更には、近隣諸国にもこの銀行ローンの仕組みが取り入れられ、ルーフトップ PV の導入が始まることが期待されている。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp